

文化財 IPM 実践のための研修会

文虫研究第H28-50号

平成28年 9月12日

- 主催 公益財団法人 文化財虫菌害研究所
- 共催 一般財団法人 環境文化創造研究所
- 時期 平成28年11月17日(木)、18日(金)
- 会場 新宿歴史博物館 (東京都新宿区三栄町22)
東京メトロ丸ノ内線「四谷三丁目駅」下車 出口4より徒歩8分
都営地下鉄新宿線「曙橋駅」下車 A-4出口より徒歩5分
- 対象 一般の文化財保存管理者をはじめ、博物館・美術館・図書館・資料館・文書館等において展示・収蔵品や資料等の保存管理する担当者、文化財に関する生物被害防除企業の方(文化財虫菌害防除作業主任者、文化財 IPM コーディネータを含む。)
- 定員 30名
受講希望者が定員を超える場合に人数調整をお願いすることがありますので、一団体から2名以上希望する場合は、予め優先順位を決めて希望書を提出してください。
- 受講料 当研究所維持会員(団体会員所属役職員も含む。) 18,000円
非維持会員 20,000円
- 申込方法 (1) 平成28年10月11日まで(厳守)に「受講希望書」(別添)をFAXまたは郵送でお送りください。
(2) 希望書をお送りいただいた中から当研究所で受講者を決定し、10月中旬までに受講の申込み方法等を通知します。なお、今回受講していただくことができない方にもその旨を通知します。

〈受講希望書送付先〉

〒160-0022

東京都新宿区新宿二丁目1番8号エスケー新宿御苑ビル6階

公益財団法人文化財虫菌害研究所

電話 03-3355-8355 FAX 03-3355-8356

各位

公益財団法人 文化財虫菌害研究所

理事長 三浦定俊



平成28年度「文化財 IPM 実践のための研修会」の実施について

当研究所では、3年間にわたり「文化財 IPM コーディネータの有資格者」を対象として、IPMの具体的な手法や道具等の正しい使い方を体験することを主な内容とする「ワークショップ」を実施してきました。

その過程で、博物館・美術館等の方からは、実技を支えるIPMの考え方も併せて修得が必要とされることや個々の館等においてIPMを実践する際に必要な館内の役割分担や協力体制の作り方に関することについてご意見がありました。また、防除業務や環境調査を行っている企業の方からは、館側のニーズに合致したIPM手法やメンテナンスに関して、実践を通して学ぶための場を求める声がありました。その他に、IPMを円滑にすすめていくための館と企業の連携について、それぞれの立場や事情等を踏まえた参加者相互、講師等との情報・意見交換も必要とされていることが明らかになってきました。

このことから、今年度は、博物館・美術館等と企業が文化財IPMを実践する上で必要な環境把握や対処法の実演と実習、IPMをすすめていくための関係者相互の役割分担や協力体制、それらに関する疑問や問題点について研究成果と豊かな経験をお持ちの講師を招いて講義と意見交換の時間を十分に組み込んだ研修会を行うことにしました。

また、「ワークショップ」では参加者数に限界があったため、本研修会はIPMコーディネータ有資格者に限らず、一般の文化財保存管理者をはじめ博物館・美術館・図書館・資料館・文書館等において展示・収蔵品や資料等の保存管理を担当している方、文化財に関する生物被害防除業務に携わる企業の方等も参加対象としております。

文化財IPMに関心をお持ちの方のご参加お待ちしております。

11月17日(木)

10:30～10:45 ガイダンス

10:45～12:00 目視による施設調査

—施設をよくある問題点とその効果的な点検とは—
公益財団法人文化財虫菌害研究所 理事長 三浦 定俊

IPMの調査は虫のトラップ調査やカビ調査ではありません。施設に外から虫や水が侵入する隙間がないか、壁に結露しないかなど、目視で施設の問題点を見つけて早めに対処することが大切です。博物館・美術館・図書館などで、どこに着目して施設を調べるべきか、問題点を効果的に発見するために施設の環境把握をするためのチェックシートの作り方と使い方を考えます。

また、当研究所で用意したチェックシートのモデルを使いながら、エントランスホールや外周などを調べたり、チェックシートに足りない項目について考えてみてください。

12:00～13:00 昼休み

13:00～14:00 一歩進んだ温湿度調査

—温湿度の正しい測定方法と記録の持つ豊かな情報を活かす—
公益財団法人文化財虫菌害研究所 理事長 三浦 定俊

漫然と温湿度計で測定しても正しい温度や湿度は測れません。何を知りたいのか測定の目的をはっきりさせ、目的に沿った測定器と測定場所を選ぶ必要があります。また正しく測定した記録は豊富な情報を持っています。温湿度記録から生物被害の危険を予測できることは防除事業者の力にもなります。実際に温湿度計の使用方法を学びながら、いくつかの測定データをもとに何をどこまで読み取れて推測できるか、あなたも推理してみましょ

う。

14:00～14:10 休憩

14:10～15:40 虫とカビの観察の仕方

—生物の特徴をつかみ、生物から情報を得るための方法—
公益財団法人文化財虫菌害研究所 研究員 岩田 泰幸

施設内で見かける生物が全て文化財に加害するわけではありません。虫については、顕微鏡等を使用し、スケッチすることで「見る力」を養いましょう。またカビについては、培養されたカビの実物を観察しカビの特徴のつかみ方を学ぶとともに、綿棒によるカビ採取法を実践し習得しましょう。

15:40～17:00 情報交換

文化財IPM業務の実施状況や取り組みの様子について紹介してください。IPMをすすめていく上での問題点や課題等についてIPM業務に携わる様々な立場の方々と情報交換をし、問題解決や新たな提案につながるきっかけを作りましょう。

11月18日(金)

10:00～12:00 施設における専門技術者の調査手法とIPMメンテナンス
—施設ごとの調査ポイントの実践研修とIPMメンテナンス—

一般財団法人環境文化創造研究所 主席研究員 川越 和四

文化財IPMを行う上では、現場の状況や保存環境の変化、虫菌害の有無などに気づくことが大事です。現場を把握するための日常点検のチェックシートの点検項目について意見交換をしながら、調査の際に見るべきポイントや状況の捉え方を学びます。それらの対処法の一つとして日常できるIPMメンテナンスを実践します。

12:00～13:00 昼休み

13:00～14:00 生物環境調査報告書の活用方法

—報告書の読み方と対策の立て方—

公益財団法人文化財虫菌害研究所 研究員 岩田 泰幸

報告書のモデルをもとに、報告書の情報を的確に読み取り、それをもとに適切な対策をたてていく方法について学びます。また、そのような活用に耐えうる報告書を作成するために必要な掲載事項その他について考えていきます。

14:00～15:00 IPM導入12年間で見た課題とその解決

—必要な仕事の明確化と役割分担の定着を通じたIPMの推進—

君津市立久留里城址資料館 主査 布施 慶子
公益財団法人文化財虫菌害研究所 理事長 三浦 定俊

IPMは一人の学芸員が行うものではなく多くの職員が協力してすすめていくものです。そのためには仕事の中身と量がある程度明確にし、それを何人でどの時期、誰の指揮のもとで行うか決めておく必要があります。ここではIPMを導入12年余の積み重ねをもつ館でのIPM実践例を参考に、IPMを成功させるための館内の協力体制、専門作業の企業への分担・委託の判断について考えます。理事長との対談形式で進めていきます。

15:00～15:10 休憩

15:10～16:30 意見交換

2日間の研修会の中で出てきた課題や解決すべき問題点を取り上げ、IPMを円滑にすすめるための館内の作業分担や協力体制をどのようにしていけばよいか、IPM事業を外部企業等に委託する場合の両者の関係などについて、講師と受講生で意見交換を行います。

16:30 閉講